

白人は、白人の幸福の爲には何物をも犠牲にしてよいといふ考を性格としてもつてゐます。平和とか、幸福と云つた事をよく白人も云ひますが、それは白人の平和であり、白人の幸福であります。

世界平和と云ふのも白人の世界の平和であります。まことに勝手な御都合主義者達であります。

白人の現はれるところ、必ず其處に、侵略があり、占領があります。

恐らく、アメリカインディアンは、コロンブスによつて發見されなかつたら、現在よりは平和に暮して居たに違ひありません。

彼等は決して、四海同胞と云つた清らかな心を持つてゐません、他民族をどんなに苦しめても、自分達だけが甘い汗を吸へばいいのだといふのが、その考へ方であります。

だから、アメリカ大陸でも、アフリカでも、濠洲でも、インドでも、そこに白人が

現はれて、決してそこに住んでゐたところの住民が幸福になつたところは、地球上のどこにもないのであります。

私達は、この點汗を流さなくてはなりません、嫌つたり、憎んだり、する必要もありません。彼等共、同じ人間でありますから、私共は、彼等の考が決して、正しい道であるのではなく、本當にそれが幸福になれる方法ではないといふことを、あらゆる場合に反省させなければ、なりません。

表面は佛の様にやさしく出るのであるが、内心は悪魔のような白人を私達は人類の平和の爲に地球上に正しい生活が生れてくる爲にも、あらゆる方法をもつて、反省させなければなりません、んこれがわが民族の光榮ある使命であります。

たとへば、支那大陸には滿洲民族もれば、漢民族も、その他いくつかの民族がりますが、決して、他民族を犠牲としてしまふやうなことはありません。

清國は滿人の建てた國でありましたが、漢人と滿人とをおなじ様に扱つてゐまし

た。

日本などになると、まつたく、同じやうに考へて、決して區別いたしません。日本にも、ずいぶんと、いろ／＼な民族が、歸化して居りますのであるが、皇室では、一切を抱擁してきましたから、今では決して見分けがつかないやうになつてしまひました。

文化でもそうです。常に他文化との融合をはかつてゐます。

支那文明でも、西洋文明でも、決して嫌つたり、排斥する様なところはありませんでした。それと、日本の文化をうまくとけあはせて、誰でも便利な、更に一段と高い文化をうちたてゝいきたいといふのが我が民族の願であります。

さて、その白人が東洋に手をのばして來ました。

イギリスと、フランスとが、魔の手を東洋に手をのばして來ました。

東洋を、アフリカの如く、インドの如くにしてしまひたいと、手をのばして來まし

た。

イギリス、フランス、ロシアであります。

ロシアは先づ北の方から、だん／＼にせまり一六八九年には清國とネルチンスク條約を結んで、シベリヤに入り、一七〇七年には、まつたく、シベリヤを占領し、沿海州に延びて、北、東と、支那をとりまいて來ました。

西、南からは、イギリス、フランスがやつて來て、インドをとり、印度支那半島に侵入し、支那の西部にまはりました。

アメリカ合衆國は、フィリッピンを占領して、東、南から、東洋を、かこんできました。

北にロシア、

西、南に、イギリス、フランス、

東にアメリカ合衆國

と、恐ろしい白人の魔手は東洋を包んで来てゐました。

その頃の東洋は、インドでも、シヤムでも、支那の清國でも、日本でも、申しあはせた様に鎖國といつて、外國と交際しない政策をたてゝゐましたから、そうした白人の魔手に氣がつく筈がなかつたのであります。

あゝ！東洋こそは、風前の灯であります。

この東洋を救ふ者は果たして誰か、

白人の奸策

白人が、どんな方法で侵略して来たかといふことを、二三考へて見ませう。

たとへば埃及は現在イギリスの保護國になつて、英國に治められてゐます。

埃及は、すでに、諸君も承知の様に、今から五千年も昔に、立派な文化を建設して今にも、その當時の遺跡として、ピラミットやスフィンクスを残してゐる程の國であります。

この埃及が、あの有名なスエズの運河を造つて、たいへんな金を費しました。

すると、イギリスはこのスエズの運河をつくつた會社の株を、そうつと買ひこんでしまつたのです。

株を買ひこんでしまふと、その會社を英國人の手に收めてしまひ、はては、スエズ運河も英領とし、更に埃及の内部に手を伸ばして、埃及人が氣のついた時は、もうどうにもならず、その頃は、イギリス皇帝がエヂプト皇帝を兼ねてゐたといふ始末です。

インド攻略もその通りです。東印度會社といふものをイギリスはつくつて、印度に貿易をひろめ、會社の支店をインドの各重要なところに建てると、こんどは、その會社の支配權を、イギリス國に委ねましたから、これも印度人の知らぬ間に、イギリス皇帝がインド皇帝となつてゐた譯であります。

インド人は未だに自分達が英國人になつたのだといふことを知らぬ人達もある程で

す。

からして、ごまかしのやうな方法で侵略してゆくのですから、一度、侵略した土地の住民が、気づいたら大變です。どんなにか怒り出すでせう。そこでイギリスはしつかりとかためにつくまでは、わざと、その住民の學問をすることを禁じ、世界の様子を全然知らさぬ様にしてゐるのです。

更に、ひどいになると、阿片戦争です。支那に逼つて來たイギリスが、支那に對してどんな方法をとつたかを、いや、それが白人のやりかたであるといふ事を、もつともよく示してゐるものに、阿片戦争といふのがあります。

イギリスは、支那を侵略する第一の方法として選んだのが阿片の輸入であります。阿片といふのは恐ろしい毒薬で、これを煙草の様に吸ふと、吸ふくせがついてしまつて吸はずにはいられなくなつてしまひます。

吸ふと、まことにいゝ氣持ちになつて睡つてしまふ、さめるとまた吸ひたくなる、吸つてゐる中にだん／＼と身體が弱くなり、頭がばかになつてしまふといふ、おそろしい毒物であります。

こんなものを吸つてゐたら、その民族は、定つてほろびてしまひます。

イギリスは、イギリス人に、法律でもつてこれを吸ふことを嚴禁してあります。この毒薬を、どし／＼と支那に賣りこんだのであります、こんなひどいことがあるでせうか。

支那人は、たくさんのお金を拂つて、自分のからだをこわす、毒薬を買つてゐたわけです。

清國政府はおどろきました。早速く嚴禁しました。輸入させないといふ命令を出しました。ところがイギリスは、この禁を侵して、平然と輸入してゐました。

吸ふ者はふへる、金はとられる、まづたく清國ではこまつてしまひました。この分

でゆくと、今に國民全體が、馬鹿になつてしまふであらうと心配して、たび／＼禁令を出したのでありますが、さつぱり減りません。

そこで政府は、これはイギリスが密輸入をするから悪いのだと思つて、廣東にゐたイギリス商人の阿片をこと／＼取り上げて、焼きすてさせてしまひました。

ところがイギリスは勝手なもので、自國の貿易を保護するのだといつて、たくさん軍艦を送り、重要な港を全部占領してしまひ、さては南京までも占領しようといふ勢を示しました。

驚いたのは清國です。あまりに急ですからすつかり負けてしまひ、和睦を求めて南京條約といふのを結びました。

ひどいやりかたもあつたもので、この條約で、清國はたくさんのお金と香港といふ港をイギリスにとられてしまつたのです。

日本の孝明天皇の御代です。香港がイギリス領になつた次第です。

毒藥をのまして金をとり、領地をうばつたりするのだから、誰が考へたつて悪いこととあります、このイギリスを今でも蔣介石が信賴してゐるといふのは一體どうしたこととせう。

神國日本よ起て

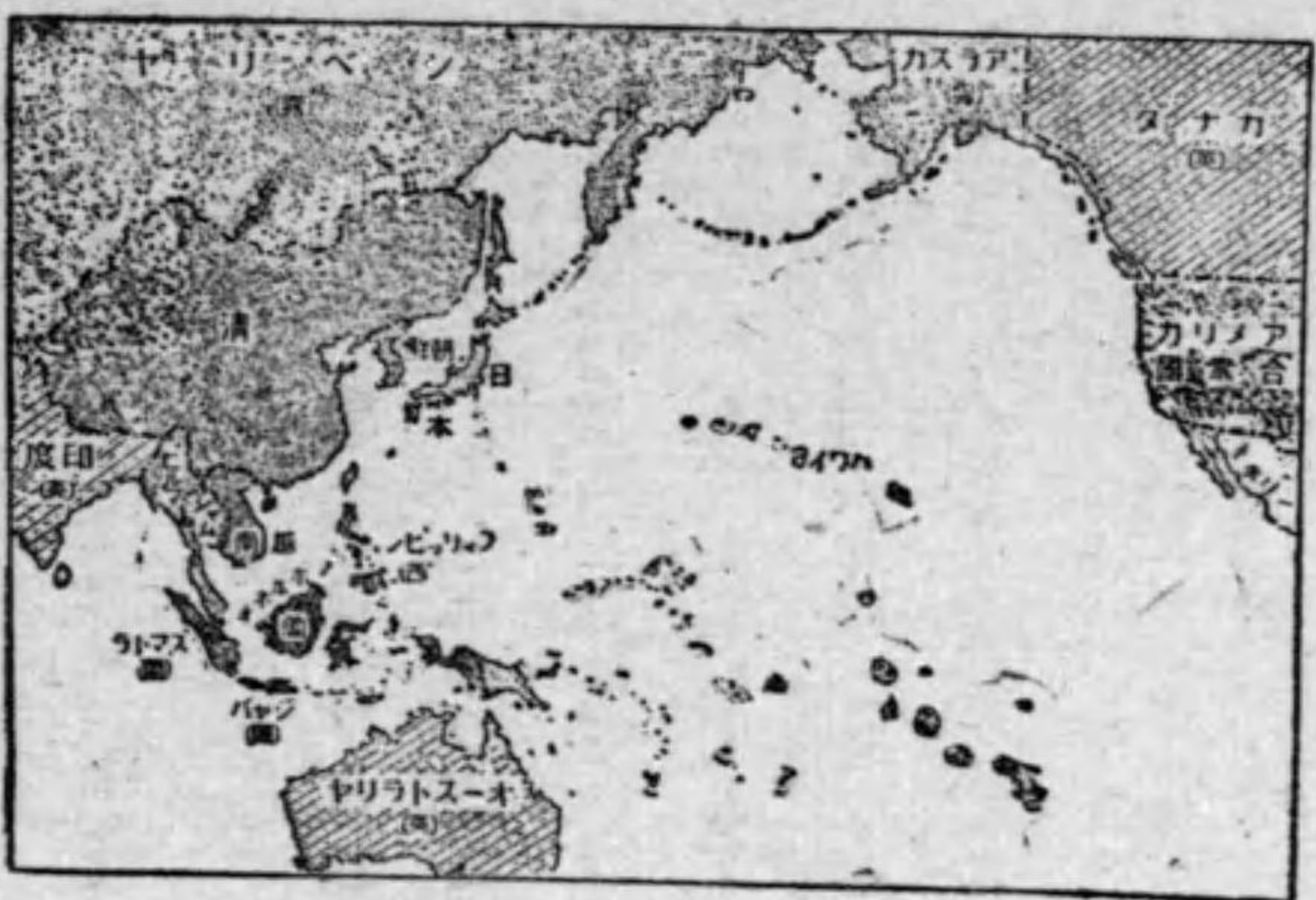
白人はぢり／＼と東洋の周圍からおしよせて來ました。

ただ内部の清國だけは強大な國であり、支那の中央に位して頑張つてゐましたから、流石の白人も遠慮してゐました。まだ清國が強いと思つてゐたのです。

清國がまだ白人の野心を見抜かぬから大丈夫だが、一度たち上つたらどんなに強いかも知れぬとびく／＼して、清國をおこらせまいとしてゐたのです。

外部から、周圍から、ぢり／＼と包圍してしまつてから、支那をやつけてしまへと思つてゐたのです。

だが、なか／＼に支那はこの白人の野望に氣が付きません、どん／＼周りが侵略さ



土領の白人の時當

れても、案外に平氣でゐます。

そこで西洋人は、清國は眠つてゐるのだ、起きると恐ろしいぞ、うつかり起こしてはいけない、清國は眠れる獅子だと思つてゐました。

しかし、清國は阿片戦争であつさりイギリスに負けてしまひました。何時かは、清國が獅子ではない、あはれ眠れる豚であつたと、正體が知れたらどうでせう。

豚はあくまでも豚である、何時かは正體が白人に判る。そうなつた時の支那はどうなるであらう。

あやふいかな

東洋をまもるために、東洋永遠の平和の爲に、東海の孤島に三百年靜かに力を養つてゐた神州日本よ！

たつべきの秋が來た！

あはれ弱小民族を救ふために、更に、白人萬能を信じてゐる西洋人に、眞の世界平和樹立の道は四海同胞、相依り、相扶ける事の正道を教へるために神州日本よ立て、立つべき時が來た！

人類平和の爲に、神國日本の使命を果たす爲に、大陸に、全人類の前に、その清く、尊い姿を現はせよ！

まさに、人類の危機ではないか！

十一、日本更生

封建時代の崩潰

大陸經營の矛をおさめて千年、日本はひたすらに、やがてたつ力を養つてゐました。

その間に武士が起つて、勇武の氣風を全國にひろめました。それは遂に我が國體と相入れない武家政治をおこしてしまひました。

その間に、元寇があつて、これを撃退いたしました。これは武士の力といふよりは、國民總動員の力でありました。

皇室を中心として日本民族のうつて一丸となつた力でありました。

それは武家政治の誤まれるものであることをかすかながら、その頃の日本人に反省させました。

それは幕府の力を衰えさせ、やがて政權の朝廷にかへらるべき氣配を示しました。

この様子を深く心配されたのが後醍醐天皇であらせられ、建武の中興の大業を遂行を見ましたが、大陸との關係がなくなるとまた武士達が、武家政治の誤れるものであ

るといふ反省を忘れて、民族の神、楠公父子、北畠父子等幾多の忠臣を後世の鑑と殘して、再び武家政治にかへつてしまひました。

しかし誤まれるものはあくまで誤つてゐます。武家政治は國內統一上にうまくゆかずにつつかくの大陸經營も忘れ、世は戰國時代となつてしまひました。

だが、日本の血、民族の魂は決して満足するものではありません。

尾張中村の百姓の子と生まれた豊太公は、天皇中心の政治を確立し、大いに大陸經營に乗り出したのでありましたが、中途にしてたほれ、世は徳川の幕府創設となつてしまひました。

徳川氏は武家政治を行ひましたが、天下に號令するやうになつてからは、もつぱら武道よりも學問の奨勵に力をつくしましたので、世が平和に治まると共に、國民はしみくくと反省の機會があたへられました。

その頃歐洲では白人が海外發展、他民族侵略の業が進み、その魔手は次第に東洋に

逼まつてまゐりました。

これと平行して、日本では、學問の力が、次第に、我が國體の尊嚴と、大義名分を教へ、武家政治の存在が、國體に許すべからざるものであるといふことをはつきりと知るようになりました。

日本は武士もなく町人もなく、ひとへに上御一人を中心に全國民がうつて一丸となつた姿にかへらなければならぬといふことを心の奥底から知る様になりました。

日本の血がいき／＼とわきたつて來ました。白人の魔手が伸びるにしたがつて、日本の方では、がつしりとした、尊い日本本來の姿にかへる道ゆきをすゝめてゐました。

加茂眞淵、本居宣長等の國學の研究が、いよ／＼本然の姿をはつきりさせて來ました。

竹内式部、山縣大貳、等は、その實踐運動を起こした人でした。

日本は、こゝに五百有餘年、本然の姿にかへらうとして來ました。

白人の魔手は東洋を包圍してゐる。

日本は復古更生の途をたどつてゐる。

いまや、新なる歴史のはじまる機運がつよくなつて來ました。

これらを考へて見ても、人間の力では知ることの出來ない力を思はずにはいられなくなりません。

王政復古

武家政治の崩解と、白人東洋侵略とが、平行しつゝ進んでゐたといふ事は確に一つの神祕であります。

日本は白人が侵略しつゝあるといふ事を知りませんでした。しかし日本にはその危機にそなへるために、着々と歴史が動いてゐたのです。千年の昔、學國一致本然の日本の姿は、大陸經營に素晴らしい功績をあげました。

世界の状況は、いよ／＼日本民族本来の使命遂行をせまりつゝあります。日本内部では、本然の姿にかへらうとしつゝあります、それが王政復古運動であります。



明 治 大 帝

今までの人達は、この二つの問題に關係がない様に見て來ました。それは西洋支那、日本の歴史を別々に分けて考へて來たからであります。

日本が元寇を破つたといふ一つの事柄が近代文明の原因となつた様に、世界の

動きといふものは日本を離れては考へられませんが、

當時の白人は、東海の孤島にある日本といふものをよく知らなかつたかも知れませんが、しかも日本は世界を動かしてゐました。

その日本がいよ／＼本格的に乗り出そうといふ時期になりました。それには日本が本當の姿にならなくてはなりません。それが王政復古の大運動です。

六百年もつづいた武士階級がつぶれてしまふといふのですから、これは大事件であります。これが成功するまでは幾多の年月と苦難がありました。

徳川氏は、たいして悪政を布いた譯ではありません。

國內には平和がつづいてゐます。その幕府をたほそうといふのです。

この運動こそは日本人の血の要求であり、慾求であります。日本人の血は世界の状況を、白人の侵略を、東洋の危機を神祕的な力をもつて感じて、ますます強く、王政復古運動に邁進して來ました。

竹内式部が京都で始めて王政復古の獅子吼をして罰せられたのが二四一九年寶曆九年で山縣大貳が罰せられたのは二四二七年明和四年で、二四三八年にはシベリヤを攻

略したロシアは千島の國後島に來てゐます。



竹内式部大王の義とく

林子平が海國兵談を著して、國家總動員を叫んだのが二四五二年で、その年には、ロシアは北海道の根室まで來ました。つづいて、イギリス船が長崎を騒がし、アメリカ合衆國が下田に來る、と云つた工合で日本はどうしても、外國との問題に手をつけなければならなくなりました。孤島の日本が世界の日本に飛躍をする瞬間であります。

日本の使命遂行の光榮ある再出發です。それにはどうしても日本が本然の姿にたち

かへつてからでなくてはなりません。

その本然の姿にかへる努力が尊王攘夷運動でありました。攘夷運動は大陸運動の基をつくるために必要であつたためであります。

王政復古して明治の御代になれば、この攘夷運動は一變して開國運動となつたわけです。

白人が北から、南から、東から、ぞく／＼と日本に向つてやつて來ます。

一代の英雄、井伊直弼をしてみても、これをうまく處理する事が出來ませんでした。

安藤信正老中となつて、外國との問題處理は到底幕府の力だけでは圓満に出來ないことを知り、朝廷と幕府の一致の力でやつて行かうとする公武合體説を唱へるようになりしました。

しかし、これでも日本の本當の姿でありません。
日本が、民族の使命を遂行するためには、一君萬民の尊嚴な姿にかへらなくてはならぬのです。

幕府をたほせ！

幕府をたほせ！

と、云ふ聲がそれでありませぬ。

幕府をたほして本然の姿にかへらうとする運動と、武家政治をつづけたいといふ考をまだ持ちつづけてゐる人達と、日本の内部が二つになつて約十五年間つづきました。

その間に、白人は何を考へたであらうか、

日本を二つに分裂させて、その力をいよ／＼弱めたいと、佛國は幕府に援助をするといひ、英國は討幕援助を薩長にしようといふ態度を示しました。

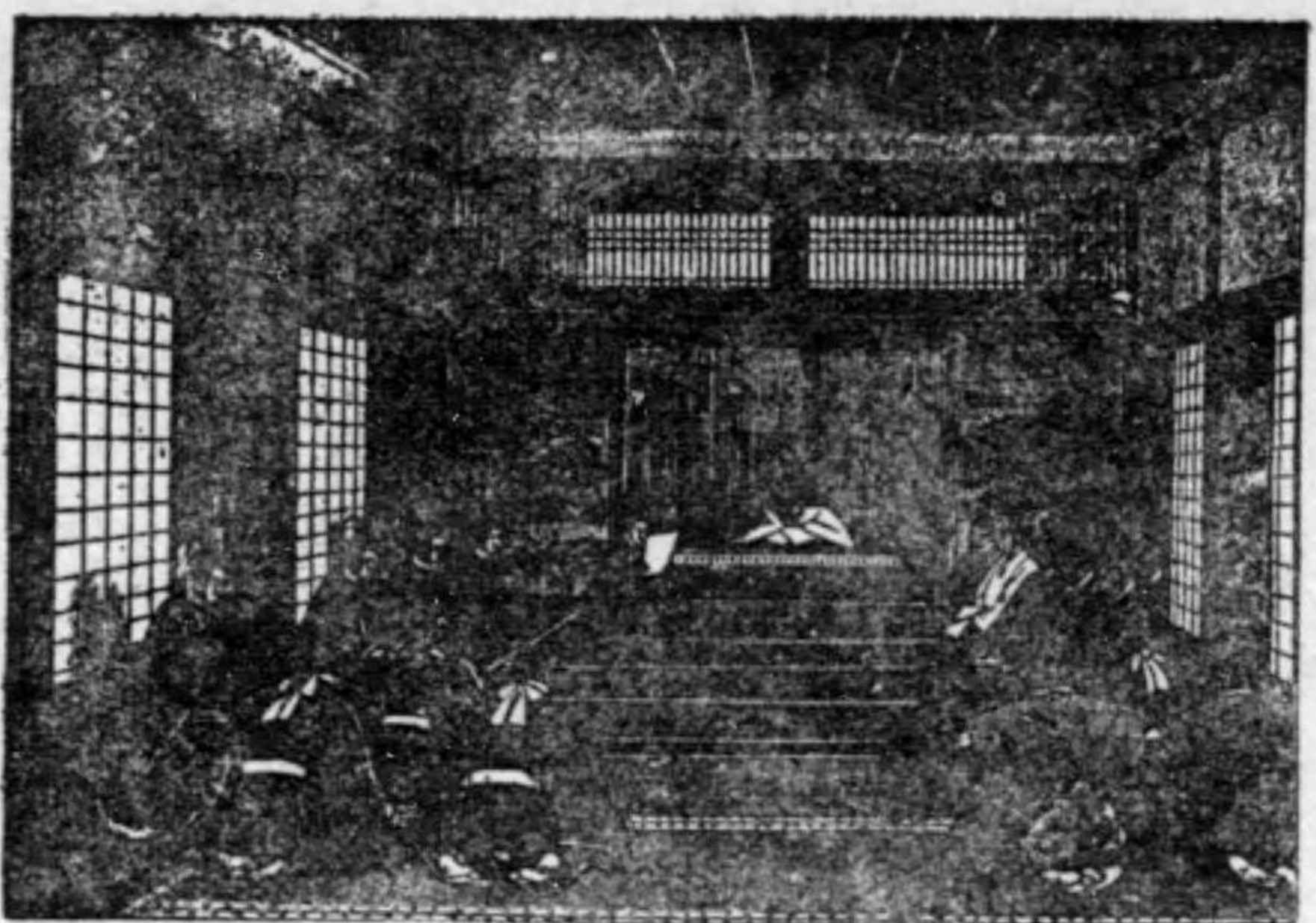
それは丁度、現在、東洋が、東洋のための東洋、東洋の本當の姿にかへらうとする

や、國民政府側に、力を借して、東洋を二分し、相争はせてゐるイギリス、フランス
ロシアのやりかたと一寸もかはりがありませぬ。

しかし、幸なるかな、
日本人の中には蔣介石の如き迷える者がなかつたので斷然、白人の奸策をしりぞけ、勤王の爲に一意邁進いたしました。

慶應三年十月十四日大政奉還となり、十二月九日王政復古の大號令が發せられ

「諸事神武天皇創業の昔に基いて、上下の別なく至當の公議をつくし、天下の安危を同じうすべし」



王政復古の大命を下賜す

とのお諭しが下りました。

東洋の危機まさに熟して、王政復古なれり

この日！

この日こそ東洋まさしく黎明の日、

東亞維新の第一日であります。

これから日本はすつくと、世界の真正面に尊くも勇ましい姿を現はすことになりました。

十二、東洋の黎明

新政の大方針

世界の舞臺の上に神州日本がいよく登場しなくてはならぬ重大な時期となつて來ました。日本は日本の本然の使命を遂行しなければならぬ立場になりました。

その爲には日本の本當の姿にかへらなくてはなりません。

一君萬民の尊嚴なる姿にならなくてはなりません。

これが徳川慶喜の大政奉還によつて實現いたしました。

この日から、日本は新なる使命遂行に乗り出す事になりました。

王政復古して、日本は新なる使命に邁進する。

源頼朝以來七百年の久しきにわたる武家政治はすつかりやんで、國體の本義にか

へり、大陸經營に、東洋の救世主となつてたゞなければならぬ時となりました。

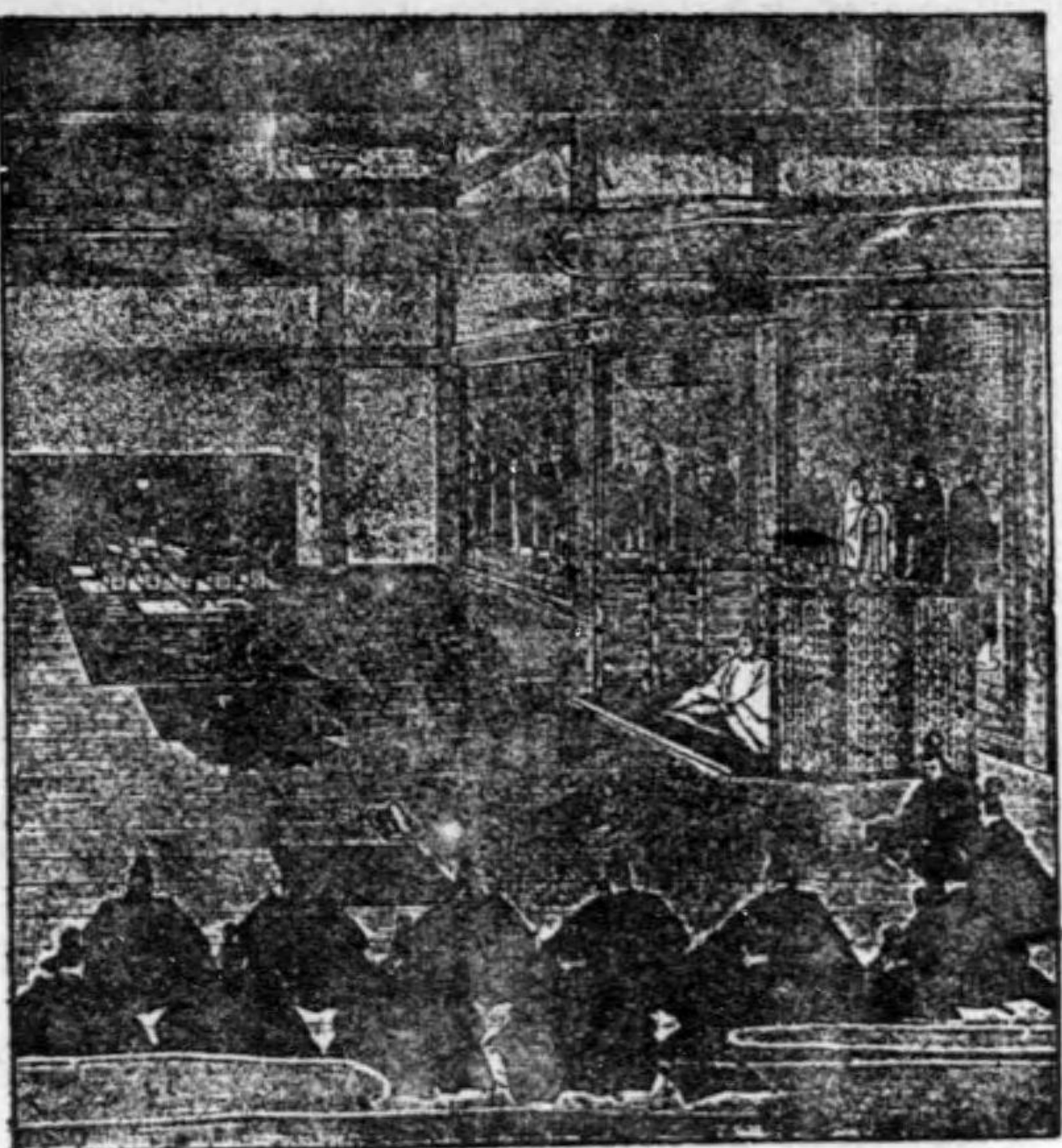
畏くも明治大帝はこの重大な時に際會して今後の往くべき大方針をおしめしになりました。

新政の大方針であります。

明治元年三月十四日

天皇紫宸殿に出でまし、文武の諸臣を率ゐて御親らこれを天地の神々に誓ひ、廣く一

般國民にお示しになりました。



天皇神々五事を誓ひ賜ふ

此の日天皇は親王、公卿、諸侯を紫宸殿に召し給ひ、程なく出御と共に總裁三條實美祭文を奏すれば、天皇南殿左側に設くる神壇に玉串を捧げて、恭しく禮拜、親ら五事を天神地祇に誓はせられ、次に實美をして御誓書を読み上げしめられました。

- 一、廣く會議ヲ興シ萬機公論ニ決スベシ
- 一、上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸

ヲ行フベシ

一、官武一途庶民ニ至ルマデ各々其ノ志ヲ遂ゲ人心ヲシテ倦マザラシメンコトヲ

要ス

- 一、舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クベシ
 - 一、智識ヲ世界ニ求メ大イニ皇基ヲ振起スベシ
- 我國未曾有ノ變革ヲ爲サントシ、朕躬ヲ以テ衆ニ先ンジ、天地神明ニ誓ヒ大イニ斯ノ國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ立テントス衆亦此ノ旨趣ニ基キ協心努力セヨ
- 世に之を五箇條の御誓文といひます。

やがて實美の捧讀が終ると、公卿諸侯一人づつ中央に進み出て神を拜し、次に正面の玉座を拜み、然る後自ら筆をとつて、誓約文に

「此の度の御仰はまことに廣大無邊、今の日本に取り、將來の日本にとつては極めて重要なもの、私共は死を誓つて御守りいたします」

と、記名調印いたしました。

まことに莊嚴なる中に新政の第一歩が踏み出されました。

これが今後の大方針となつたのであります。

國力充實

徳川幕府末期には、國論自ら二つにわかれて、舉國一致の實をあげる事が出来ませんでした。

尊王論と佐幕論

攘夷論と開港論

それが後に

尊王攘夷論と開港佐幕論

と、なり

明治の大御代になつて、

天皇親政開港の代

と、なり、國內が一丸となつたのであります。

天皇は、この新なる時局を一層國民に徹底せしむべく、幕府の本據でありました江戸城にお移りになる事になりました。

江戸はもと徳川氏のひらいた都市

關東未だかつて帝都となりしことなきの地、天皇の深遠なる大御心拜察申し上げる

だに畏れおほいきはみであります。

詔に曰く

「朕、萬機ヲ親裁シ、億兆ヲ綏撫ス、江戸ハ東國第一ノ大鎮、四海輻輳ノ地、宜シク親臨以テ其ノ政ヲ視ルベシ。因ツテ自今江戸ヲ稱シテ東京トセン。」

是レ朕ノ、海内一家、東西同視、スルノ所以ナリ、衆皆コノ意ヲ體セヨ」

明治五年には、學制を發布し

「村に不學の家なく、家に不學の人なき様」

にと仰せられ、國を進むる本は何といつても教育であるとの大本を示され、小學、中學、大學を設立し、世界文化を吸集し、世界文化を日本に融合し、新文化を樹立し、もつて大飛躍の力となさんといたしました。

武士階級が崩解し、武家政治がなくなつて見ると、當然國を守るものは古の如く軍隊の力になつて來ました。

そこで明治五年十一月、徵兵令を發布して、國民皆兵の制度を定められました。その別に、階級風俗の改良、諸文化の振興に力を注ぎましたので、たくましくも日本の實力はすく／＼とのびてゆきました。

白人を押えてゆくには、白人なみの文化と、實力を、或はそれ以上のものをもたなくてはなりません。

そしてこの大業が、進むにつれて、白人にもおしもおされぬ立派な文化と實力をもつようになりました。

いざ起て日本、白人の横暴を打倒せよ

日清戦争

日本はながい事鎖國をしてゐましたから、白人の東洋侵略といふことを全然知りませんでした。

其處にロシアがやつて來た。イギリス船も來た。アメリカ合衆國もやつて來た。一時にどつと白人に見舞はれて鎖國の夢破れ、戸を開いて見てびつくりいたしました。

日本人の血は早くから世界の狀勢を本能的に知つてゐて、この世界の狀勢に乗り出すべく、王政復古せしめて力を養つたのであります。見よ白人の侵略史を
白人はひし／＼と東洋にやつて來てゐる。

東洋の周りに逼まつて來てゐる。
毒牙をむけてゐる

捨て、おけば、東洋は白人のゑじきになつてしまふ。東洋民族は滅びてしまふ。何とかしなくてはならぬ、東洋はインドの如く、アフリカの如く白人にふみにじられてしまふ。

危急存亡の重大時局に直面してゐる。

日本の使命がそこにあつたのだ。

日本の血はそれを本能的に知つた。

日本人は何をなさねばならぬかを知つた。

先祖からの血がたぎりたつた。

東洋平和の建設をしなくてはならぬ。

その爲には全東洋民族の眼をさまさなくてはならぬ。

昔清國の屬國であつた地は、次々と白人にわけどりされてしまつてゐるではないか、

見よ！まさに朝鮮もあぶなくなつてゐる！

朝鮮を餌にしやうと強國ロシアの手はウラジボストクまで伸びて來てゐるではないか。

そこで日本はこの事を朝鮮にしらせ、朝鮮は立派な獨立國であるとなし、これと國交を結び、日本の力で朝鮮をまもつてやらうとしたのであります。

兩國の間に結んだ日韓修好條約には

第一條 朝鮮ハ自主ノ國ニシテ日本ト平等ノ權ヲ有セリ

ところが、東洋の危機を悟ることの出來なかつた清國は無法にも、朝鮮内部の清國に心をよせる人達と結んで、朝鮮に内亂を起させました。とんでもない事です。北ではロシアが手を出す折をねらつてゐるではありませんか、若し朝鮮がロシアに攻略され

てしまへば、日本と支那の間が中斷され、しかも支那自體が白人に包圍されてしまふ
ではないか。

日本はその無智に驚き、その亂を鎮めて、清國と天津條約を結び、共々に朝鮮の獨
立を助けてやることにいたしました。

ところが、どうでせう、清國は相變らず、朝鮮の内政に手を入れてゐましたから、
再び朝鮮が亂れはじめました。

清國は早速に朝鮮に出兵を開始し、天津條約により日本にも通知して來ました。

日本でも、直ちに出兵して、支那と共に、朝鮮の亂を鎮めやうといたしました。が、
清國は日本を馬鹿にして相手にしませんでした。

それに日本なんか弱いと見くびつて亂暴さへも働きましたので、遂に日本は實力を
もつてしても朝鮮を保護してやらなければならぬと決心いたしました。

東洋平和の爲にはしかたがありません、わからなければ膺懲もしなければなりません

ん、遂に國交斷絶をいたしました。

かくして日清戰爭がはじまりました。

しかも、あくまで平和を宸念遊せ給ふ大帝は宣戰の詔の中に

「——事既ニ茲ニ至ル、朕平和ニ終始シテ、以テ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚スルニ專
ナリト雖モ、亦公ニ戰ヲ宣セザルヲ得ザルナリ。汝有衆ノ忠實勇武ニ倚賴シ、
速ニ平和ヲ永遠ニ克服シ以テ帝國ノ光榮ヲ全クセンコトヲ期ス」

と、仰せられてゐます。

聖戰の詔であります。

徵兵令が布かれて僅に二十年、昔は武士階級と云ふものがあつて、専門に武術を研究
してゐたのでありますが、今や農工商の庶民からなる一般人の軍隊です。
徵兵令の軍人の初陣です。

敵は、獅子とおそれて白人ですら手を出さなかつた清國です。

西洋諸國は、一樣に日本の敗れる豫想をたてゝ、
あました。

しかし、神州日本の軍人です。皇軍です。

戦況を調らべて見ませう。

東海の一孤島日本と世界の大国清國の取り組

みであります。

戦争は豊島沖から開始されました。

宣戦の大詔は八月一日に下つたのであります

が、これより前

七月二十五日午前八時、



日清戦争の圖

我が聯合艦隊の一部、吉野、浪速、秋津洲が牙山方面の偵察にゆきました。

この三艦に對して、突如發砲したものがありました。

見れば清國軍艦の濟遠と廣乙であります。

無謀です。まだ外交交渉中で國交斷絶の以前です。我軍艦は直ちに應戦いたしまし

た。

艦長は

吉野 三二〇〇噸 大佐 河原要一郎 砲術長 加藤友三郎、當時大尉

浪速 三七〇〇噸 大佐 東郷平八郎

秋津洲 三一〇〇噸 少佐 上村彦之助

砲火はお互に交へられました。

濟遠は逃げ、廣乙は淺瀬に乗り上げて火災を起し、來援した操江を捕虜にし、高陞

號を撃沈してしまひました。

陸軍は成觀の戰から始まりました。

大島少將の率ゐる旅團です。この隊には松崎大尉、口に喇叭をあてたまゝたほれた木口小平などの勇士がゐてこれも見事に大勝いたしました。

つづいて宣戰の詔勅は下り、

第一軍 野津中將

第二軍 大島少將

第三軍 佐藤大佐

の出動となり、司令官山縣大將、桂中將の指揮するところとなりました。

大本營は廣島にすゝめられ

參謀總長 有栖川宮熾仁親王

參謀次長 川上操六

總理大臣 伊藤博文

海軍大臣 西郷從道
陸軍大臣 大山巖



と、いふ顔ぶれであります。

廣島に大本營を進められた翌日、はからずも我が陸軍から一大快報が達しられました。

平壤の陥落であります。

本大島廣
平壤は、丘陵を以て大同江に臨み、六門の要塞をもつてかためた要害の地を、三日の激戰の後攻略いたしました。

この日海軍では黄海で敵主力艦五隻を沈め、三隻に火をふかせてしまつたのであります。

かくして連戰、連勝、海軍を殆んど全滅せしめ、將に北京に逼らんとするの勢を示

しました。

こゝに於て、清國は大いに驚き、遂に和をこひ、下關條約によつて和議が成立したのであります。

その時の講和條件は

- 一、清國は朝鮮の獨立を認めること
- 二、清國は遼東半島と臺灣、澎湖島とを日本に讓ること
- 三、清國は償金として二億兩（約三億圓）を都合八回に分けて日本に支拂ふこと
- 四、清國は日本の爲に沙市・重慶・蘇州・杭州・の四港市を開くこと
- 五、清國は日本國汽船の爲に航船を擴張すること
 - 1. 揚子江の上流宜昌から重慶に至る
 - 2. 上海から吳淞江及び運河に入り蘇州、杭州に至る

三國干涉

かくして「獅子」と恐れられてゐた大清帝國が一小島國日本に大敗いたしました。世界は啞然としてしまいました。

世界中の誰もが日本が負けるに違ひないと思ひこんでゐたからであります。

東洋に大日本帝國あり！

この聲は世界の津々浦々まで響き渡りました。

しかし、勝手な白人たちは、あくまでも日本が強いのだと思ひませんでした。

日本が強いのではない、結局は支那が弱いのだ。

そう思つたのであります。

「眠れる獅子」ではない「眠れる豚である」と、考へて來ました。

日本は強くない。

支那は眠れる豚である。

かう考へた白人達が、何でこれから黙つてゐられませう。支那は弱い、日本は戦争で

疲れてゐる。

「しめた！」

と、舌鼓をうちました。

支那は弱い！

東洋永遠の平和達成の爲に日本は剣を抜いて起つたのである。

しかし、それはむしろ支那、清國の假面をはいで、その正體を示したやうなものである。

支那は弱い！

白人は、この講和條約の中に手を出し、足を出して來た。

清國は弱い！

日本は戦争でつかれてゐる。白人が支那内地に手を伸ばす絶好のチャンスである。即ちロシアはフランス・ドイツ二國を誘つて、

日本が遼東半島を持つてゐる事は東洋平和の上から面白くないから返すようにと、講和條約が結ばれて一週間もたぬうちに勸告してきました。

日本から云へば、白人が東洋をあらすために、これを防ぐ必要から朝鮮をしつかりと、獨立せしめ、清國にもそれを知らしむべく兵をあげたのでありました。

しかし、このために、たくさんの費用は使ふし、尊い血を流したのであつた。その代償として、清國からゆづりうけた遼東半島である。

それを返せ！

と、いふのです。ずいぶんしやくにもさはるではありませんか。しやくにさはるといふよりは、清國に恩をうつて、その後で、白人達がふたゝび支那の方に手を伸ばしてくるのではないかと心配もあつたのです。

清國が白人のいふうまい言葉にのせられない様に、白人が東洋を荒さない様にとどんなにか願つたのであるかわかりません。

しかも、清國はたう／＼それを察することが出来ませんでした。むしろ喜んで、日本から遼東半島をとりかへそうと考へて、進んで白人の力にたよつていきました。日本は非常に困つた。

みす／＼東洋は白人に荒されてしまふ。東洋民族の一大危機です。

しかも、その頃には、ロシア、フランスの軍艦は、我が國の諸港に集つてゐた。

我が國の艦隊は臺灣海峡にゐる

陸軍主力部隊はまだ滿洲にゐる

とても、この様子では三國相手に戦争などとは思ひもよらぬことであります、清國人の先のみえないのがどんなに齒がゆく思はれたかしれません。

残念であるがどうすることもできません。

已むを得ず遼東半島をかへすことにいたしました。

五月十日に遼東半島還付の大詔が下つた

天下の臣民は、こと／＼泣いて之を拜續いたしました。

あゝ！戦勝に歡呼した國民は、今やこの上もない遺憾なことにめぐりあひ口々に臥薪嘗膽を唱へつゝ血の代價を還付しました。

そして日本が東洋をまもる爲には、もつと強くならなければならぬ。東洋人全體が覺醒しなくてはならない。それまでは我慢しなくてはならぬ、とぢつと唇を噛みま

した。

明治天皇御製

取る棹の心長くもこぎよせぬ

蘆間の小舟さはりありとも

時機を待たう、そう心に誓ひつゝ日本は素直に遼東半島を還付いたしました。支那はまんまと白人の甘言にのせられてしまひました。

そこで白人はいよく白人としての正體をあらはし、毒牙を支那内部にむけてきました。

遼東半島を清國にとりもどしたのは、清國から考へればまったく白人のおかげである。

それだけ考へれば白人は親切である。

と、思ふのも無理がありません

ところがこの親切な人達は、日本も支那も敵對しないと見てとるや、こんどはおこがましくもいろくとお禮を請求しはじめてきました。

第一、にフランスは廣東、廣西、雲南の三省にわたる鑛山の發掘權と廣州灣の租借を申出しました

第二、ドイツは山東省の利權と、膠州灣の租借を申出でて來ました

第三、ロシアは大連・旅順の港をかりうけ、南滿州鐵道の布設權を要求しました

第四、は、この問題に關係のないイギリスまでとび出してきて、威海衛の租借を申出しました

弱いと見てとると、白人達はよつてたかつて支那をいぢめはじめました。

日本が巨萬の戦費と、尊い血の犠牲によつて得た遼東半島を、東洋平和に害ありといつて返還せしめた三國が、堂々と支那の重要地を租借し、ロシアの如き清國を横斷する鐵道まで布設して、果ては租借地の旅順・大連には堅固な要塞まで築きました。

これが白人の考から云へば正義といふのでせうか

戦争で弱つてゐるのにつけこんで、勝手なことをする、火事場泥棒の如きが白人の正義といふのでせうか。

自分達さへ、都合がよかつたら、他はどうでもよい、といふのが白人の人道でせうか。

日本臣民は、あまりに醜い白人の心に憤激いたしました。勝手にも程がある、暴虐

無人の白人奴！、しかるが故に神州日本が起たねばならぬのだ。
日本民族の使命觀と、血の憤激はちつと隱忍の唇を噛ましめ、やがて起つ力の養成に全國民は必死となりました。

義和團の亂

日清戦争の時、親切そうな顔をして支那を援助し、日本に割譲した遼東半島を還付せしめた白人達を支那人は救世主かの如くに思った。

支那の古來からの戦法遠交近攻といふのがあつて、遠く交り、近くを攻めるといふ考方にもあてはまつて、遂に日本に苦汁をなめさせた、しかしその結果はどうであつたらう。

羊の如く柔和な顔をして、悪鬼の如き白人のやり方に、流石の清國人もあきれました。

親切だと思つてゐた白人はおそろしい悪魂であつたのだ。

次々と支那の地を侵かして來る。

もし、このまゝに捨てゝおいたら一體どうなるといふのであらうか、白人の爲にめ

ちやくちやにされてしまふに違ひない。

白人の正體を知つた支那人はいきりたつた。

滅洋保清！

白人排斥！

心ある清國人は一齊に起ち上つた。

そういふ人達は非常に外國人を嫌つた。

白人を徹底的に嫌つた。

白人のやつてくる事すら嫌つた。

そうした人達は自ら義和團と稱して、外人排斥運動を開始した。



義和團の亂

運動を開始した。

教會はこはす、宣教師は殺す、しまひには公使館まで侵す様になりました。そこで、各國は聯合して兵を出し、自分の國民の生命財産をまもる事にいたしました。

支那人の白人の野心を見抜いたことはよかつた。しかしやりかたが下手だつた。義和團には役人も加つてゐたが、勝手に皇帝に叛いて亂を起したのはよくない。本當に國の先途を憂ふるのであつたら、皇帝を中心に、全國民一丸となつて努力すべきであつた。

國內に亂がおきれば、皇帝はこれを鎮めなければならぬ、外國はこの皇帝に力を借したのである。

遼東半島を日本からとりかへして、しかもかへつて大きな損をした清國の役人にもこまつたものであつたが、皇帝の事も、將來の國のなりゆきも考へないでやたらに亂暴を働いて、また／＼損をしてしまつた支那人は、もつとこまつたものである。

これが、支那に外國兵を常置せしめる基となり、租界をつくらせる原因となりました。

日本起つて白人を懲す

たかねてから支那の地に大きな野心を持ち、牙をといでゐたロシアにとつて、義和團の亂は、まことに都合のよい機會でありました。

ころんでもただ起きぬ白人ロシアです。

各國が亂を鎮めるために兵を送つて來たのでロシアも公然と清國に軍隊を入れて遂に滿洲を占領してしまひました。

やがて義和團の亂が鎮まりました。

清國はそれ／＼謝罪いたしました。

各國軍は本國に引き上げました。

しかし、ロシアだけは決して兵をひき上げようとしませんでした。

それどころか、ぐん／＼兵力をまして來て完全に滿洲を自由にしてしまひました。

東洋平和を口實に日本から遼東半島を奪取したロシアが、滿洲を理由もなく占領してしまひました。

日清戦争以來十年！

悲憤の涙にたくはえた日本の力は充實した、その間に白人のあまりの横暴さをぢつと見逃して來た。そして力をたくはへた。たくはへた力が充實した。惡を懲らす力は充實した。

起て日本！

東洋民族はみすく白人にほろぼされてしまふではないか

特にロシアには十年前の恨がある。

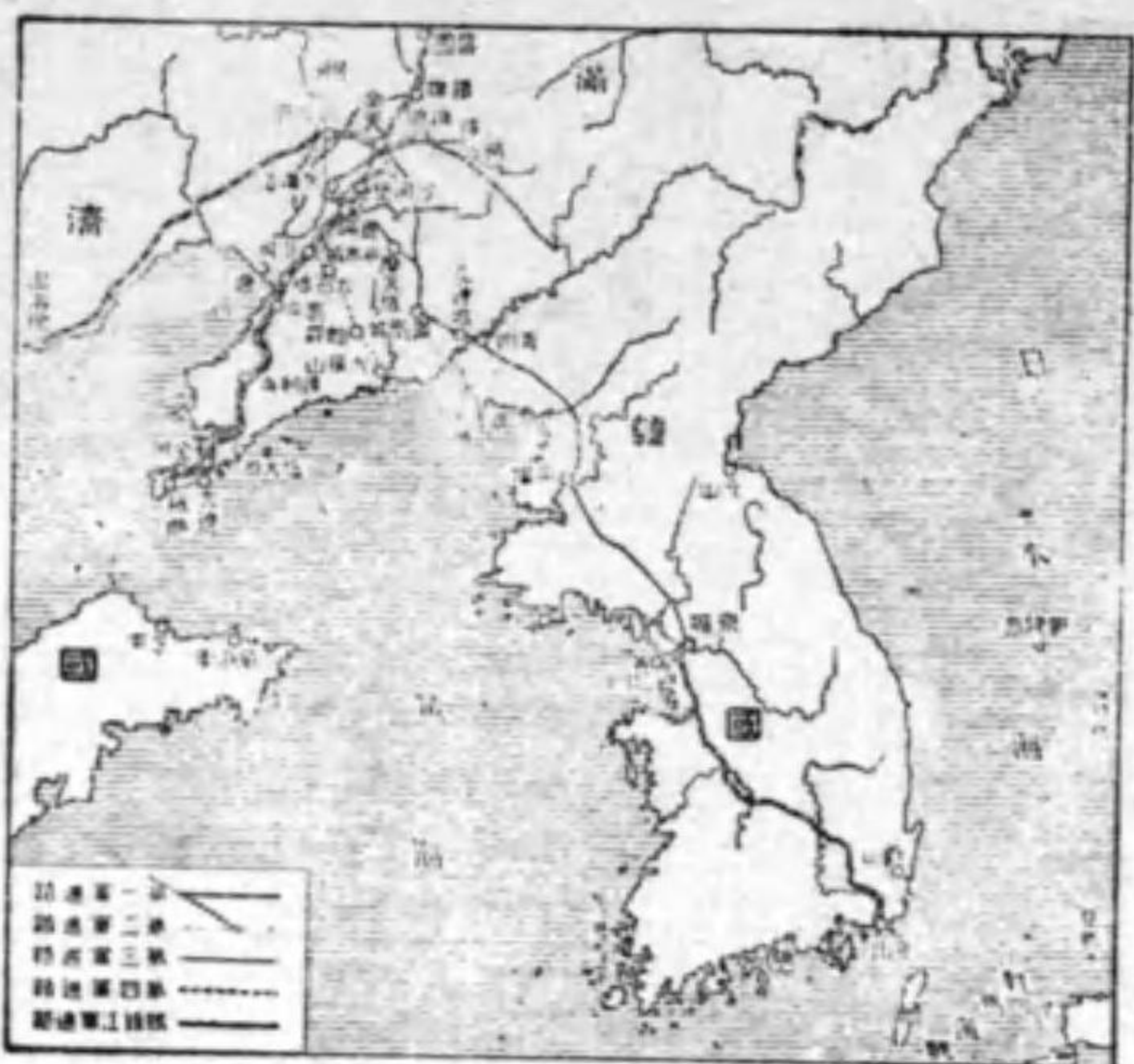
全日本人に私語く、神の聲があつた。

起て！

東洋民族の擁護のために

起て！

東洋永遠の平和の爲に



日露戦争進軍圖

堂々たる戦姿！

日本は遂に起つた。

不都合なロシアを東洋民族の幸福のために断乎として逐ひはらはなければならぬ。

明治三十七年二月十日宣戦の大詔が下つ

た

今や再び東洋の守り神として、

東洋永遠の平和の爲に

皇軍は銃をとつてたち上つた。

見よ！その英姿



日露役奉天城内八將軍の會合

東洋の守護神、皇國日本の英姿！
白人々國に堂々たる宣戦布告であります。
白人と東洋民族の争である。

- 第一軍 黒木大將
- 第二軍 奥大將
- 第三軍 乃木大將
- 第四軍 川村大將
- 總司令官 大山大將
- 海軍總司令官 東郷大將

かくして
遼陽の大捷
旅順の陥落

と、進み奉天の大會戰で、世界の大陸軍國とうたはれたロシアを惨敗せしめました。

海軍は
旅順港口閉塞



東郷元帥

遼東半島封鎖
蔚山沖の戦
と、進み、日本海々戰で、敵國海軍を全滅せしめま
した。
未曾有の大勝利でした。

勇猛果敢、東洋民族が白人を討つた！
歴史上に大書されなければならぬ偉大な事業である。
満洲はとりかへした。
とりかへして支那に無償で返してやつた。

この戦は歐洲人をびつくりさせました。

大國ロシアを破つた日本を白人は流石に見直さなければならなかつた。

日清戦争は清國が弱すぎて負けたのだと思つた。

ところがこんどは強國ロシアを破つた。

かうなるとなんとしても日本の強さをみとめなければならぬ。

これからはうっかり東洋に手が出せないと流石の白人も考へるやうになりました。

かくして東洋分割の危機を完全に喰ひとめたのであります。

若しも東海の一孤島に神州日本が存在しなかつたらどうであつたでせう。支那はとつくの昔に、アフリカの如く、白人に侵略され、分割されてゐたであります。

停戦條約（ポーツマス條約）

一、露國は日本が韓國で政治軍事經濟上の卓越な利益を認め、且つ日本が必要な場合に韓國を指導し、保護してもこれに干渉しないこと

二、露國は、清國に於て何等特別の利益を有しないことを聲明すること

三、露國は旅順、大連及び其の附近の土地領海の租借權を日本に讓ること

四、露國は長春、旅順間の鐵道本支線並に炭坑等を日本に讓ること

五、露國は樺太南半を日本に讓ること

六、露國は沿海州其他の地に於ける漁業權を日本に附與すること

明治天皇御製

四方の海皆はらからと思ふ世に

など波風の立ちさわぐらん

子等は皆いくさの場にいでて

翁やひとり山田守るらん

中華民國建つ

西洋人の正體を知らなかつた清朝では、事々に失敗して、散々な目にあはせられ大いに國力も衰えました。

清朝の國力が衰えた。

清朝が弱くなつた。

かうなると支那の悪い癖で、その朝廷を滅亡せしめたくなる。

外人が支那侵略に汲々としてゐる

そんなことを忘れてしまつて、弱つた朝廷をたほしたくなる。

叛逆の烽火を第一番に上げたのが、黎元洪です。

彼は武昌に革兵の兵をあげ、南京に臨時政府をつくりました。孫文がこの時大總統

になつたのであります。

この様子を見た清朝の重臣、袁世凱は無理に幼帝に退位を逼り、新に國號を中華民國と稱して、おめくくと自ら大總統になりました。

かくして支那は南京政府と北京政府に分裂いたしました。

ますく白人に侵略の便をつくつたわけであり
ます。

支那人の中にもこの様子を心配したものもあり
ました。こんな状態をつづけてゐたら、支那は白
人のために完く侵略されてしまふに違ひない。す
でに白人諸國は北京政府の方に味方する者あり、



南京政府に援助してゐる者もあつたのですから、どちらが強くなつても白人の勢力が
支那に入つて来るに間違ひありません。

この事を深く心配した一人に孫文がありました。

支那を統一しなくては支那人が永遠に不幸になつてしまふといふ事を深く心配いたしました。この考は日本の考とも同一であります、そこで日本は出来るだけ孫文を助けて、一日も早く支那が立派な國になる様にと力をつくしてあげました。

かうして、支那民衆を救ひ、東洋平和建設の大理想のもとに孫文は國民黨といふものを組織し、民心をあつめたのであります。

この孫文は、しかし、惜しい事にこの大業を果たさずしてなくなつてしまひました。

中山陵といふのは孫文を葬つた墓地であります。

この孫文の後をひきついだのが蒋介石であります。

蒋介石は日本の士官學校に學び、ロシアにも遊學したことがあつた。

新知識の軍隊を養成し、戦争が上手で、宣傳もなか／＼うまかつたので、彼は案外



早く民衆に信頼されるやうになりました。

そこで蒋介石は進んで北京政府を例し、全國を統一せんとしたのであります。

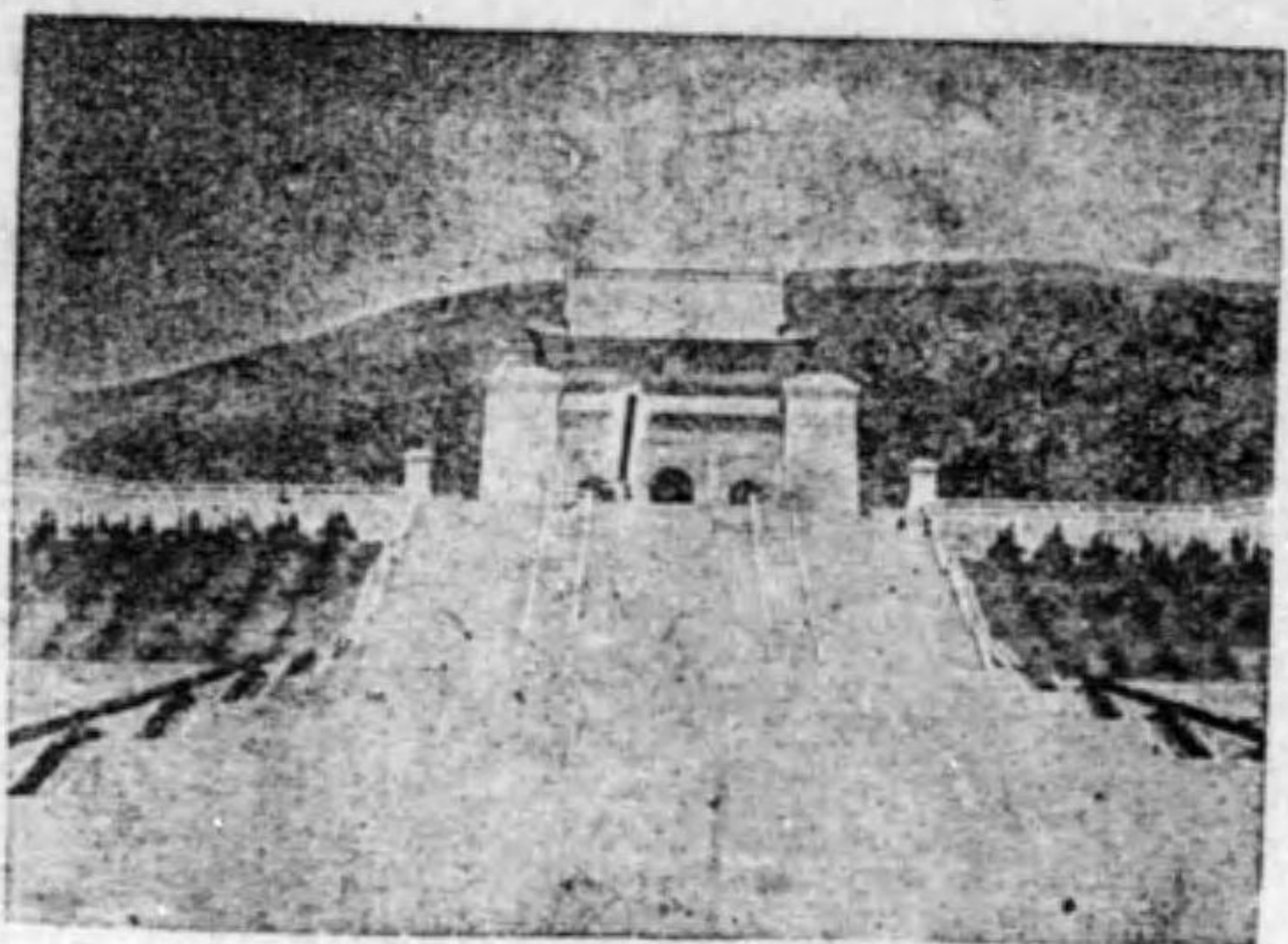
北京政府の方では滿洲の武將張作霖が大元帥となつて軍政を布いてゐたのですが、蒋介石の軍勢に破れて、故郷滿洲にかへらんとする途中爆死したといつた工合になつてしまひました。

かくして、支那は大體、蒋介石によつて統一されるやうになつたわけであります。

そこで蒋介石の勢力はますますふるひ、南北政府

を統一してしまつたのであります。

これが昭和三年六月の事で十年餘りの以前の話であります。彼は北京の政府を廢し



南京中山陵

て南京に國民政府をおきました。

かうして、支那の平和と、東洋建設の大りに想建認出發した中華民國が、何故に東

洋の守護神としての日本と戦はねばならなくなつたのでありませうか。

日本の雄姿

西洋人が、東洋の各地を侵略しかけつゝあつた時、突如立ち上つた日本の姿は白人にとつて、まことに思ひかけぬおどろきでありました。

マルコポーロの東方見聞記によつて、不思議な國があると知つた西洋人も、徳川氏が鎖國政策をとつてから殆んど忘れてゐたのです。だん／＼文ふしぎの國といふことが信ぜられぬ事柄になつて



蔣介石と汪兆銘

明が進歩してくると、實の國だの、

くると、何時しか日本の事も忘れられて、西洋で出來た地圖には日本の入つてゐないものすらありました。

その日本が白人の前に毅然として立ち上つた。

神の如き姿で立ち上つた。

立ち上ると世界最強陸軍國と云はれたロシアの大軍を撃破した。

白人を東洋民族が打ち破つたのだ。

世界歴史に於ける一大事件だ。

これからは、流石の白人も東洋に於て、わがまゝが出來なくなつた。

東洋人は心から喜んだ。

中には日本を盟主として、西洋人に對抗せんと考へる者もあつた。

朝鮮は進んで合併を申込んで來た。

支那も日本を手本として學びたいと多數の留學生をおくつてくる。日本人の顧問を

招く、そして支那は立派になりつゝあつた。東洋永遠の平和確立も實現近くなつた。

白人の奸計

白人は、次第に東洋から驅逐される。

白人は東洋で腕をふるへなくなつた。

そこで、白人は、次にどうしたかといふと、白人同志が争ひ始めた。

白人同志が持つてゐる財産に眼をつけはじめたのである。これがあの有名な世界大戦争なのであります。

日本が強大になつて、白人達が、一時東洋から手をひかなければならなくなると、こんどはもう地球上に新に手を出す場所がなくなつてしまふのである。

そうになると、どうしたといふ事でせう。

白人といふものは、あくまでも人のものをとらないと承知の出来ない人種と見えま

す。

世界中にとるものがなくなるとどうでせう、お互の領土や權益をねらふ様になりま

した。

したがつて、こんどは歐洲の天地に不安がたなびき、各國はお互を疑ひ、軍備をと

ゝのえて戦々兢兢としてゐるが、遂にこれが爆發して、あの世界大戦争を起してしま

つたのである。

白人同志の戦ですから、戦火は白人の住んでゐる全天地に擴がりました。

そして前後四年の大戦の結果、白人達は何を考へたでせう。

戦争終結の講和談判は、

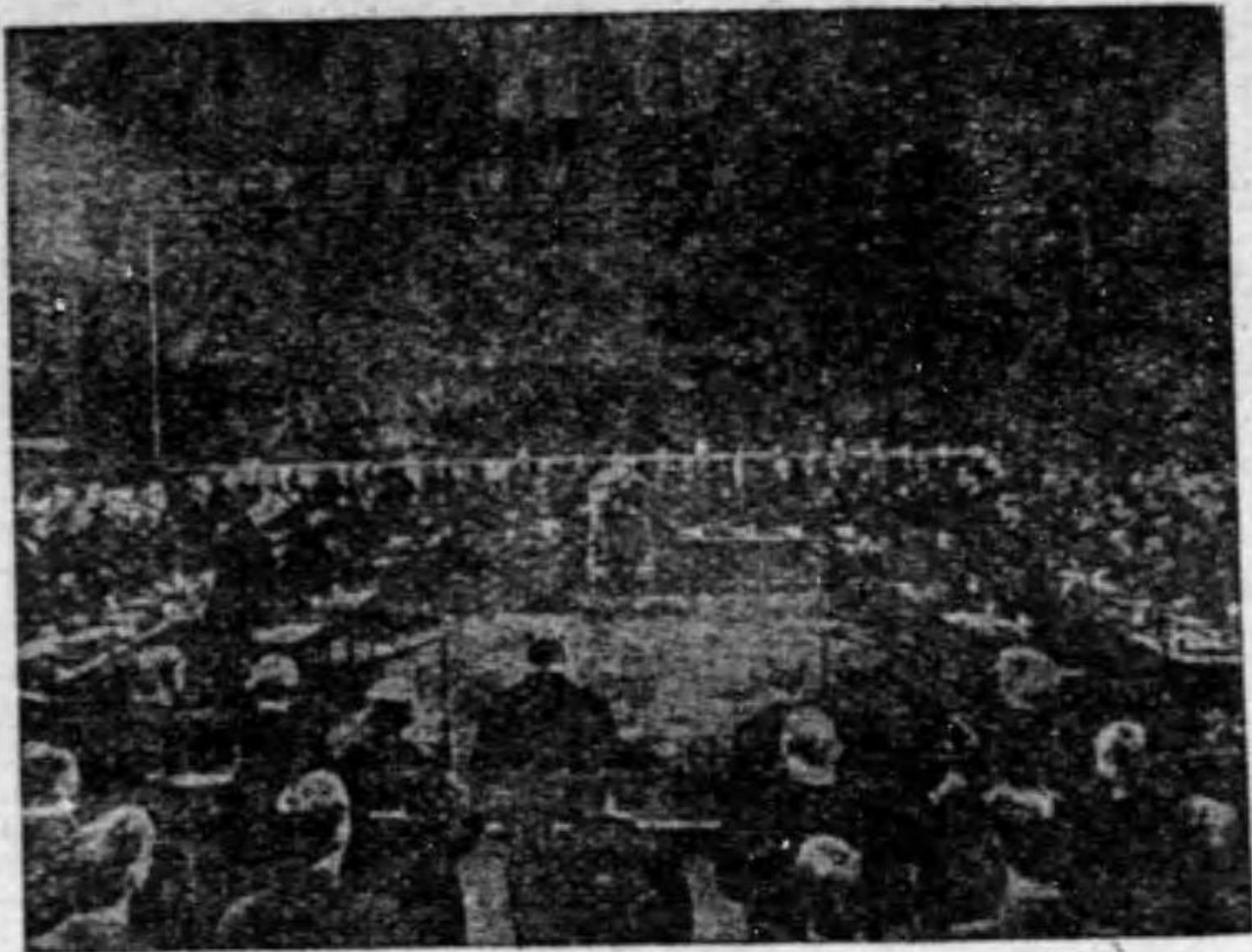
一、戦争の勝敗は決せず

二、戦後の領土廢合はしない

三、償金はとらぬ

と、云ふ條件の元に、停戦をしたのです。

ところが、停戦して、平和條約が結ばれる頃になるとその約束は全然反古にしてしま



平和會議

ひ

歐洲の二大國イギリス・フランスの都合のよい
勝手なとりきめをしてしまひました。

即ち、イギリス・フランス等の聯合軍側の敵となつたドイツ・オーストラリアの全植民地及本國の一部を割讓せしめ、更にその上に、ドイツ側の武器彈藥、物資一切を沒收し、加えて、背負ひきれぬ償金を課しました。

當時、戦後の疲弊で人心のゆるんだドイツ側はこの無茶な條約をおしつけられても、如何ともす

ることが出来ませんでした。

ドイツ民族が自滅を迎える様な條約です。

ドイツ人は齒ぎしりをして、残念がつたがどうする事も出来ませんでした。

この滅亡の道を導つてゐた、全ドイツ人の運命を挽回すべく立ち上つた英雄がヒトラーです。無暴なるこの條約の下から抜けてドイツ人を滅亡の淵から更生せしめ様と奮闘してゐます。イギリスやフランス側がヒトラーをどんなに恐れてゐるかは、大戦後の様子が判れば、容易に諒解出来る事であります。

ひどい目にあつたのは敵方になつたドイツばかりではありません。

華々しい戦功をたてたイタリアの内部も、そのころ弱つて、亂れてゐた爲に、それをよい事として、イギリスやフランスはイタリアにも分け前をあたへませんでした。イタリアは無駄骨折つた事になりました。

イギリスやフランスが勝手に私腹を肥やしてゐるのを見ては、いくらイタリアでも我

慢が出来ません。殊に國運を賭して戦つたイタリアの犠牲は大きかつたのです。

ムツソリニーが、この不合理な條約を打破すべく、今歐洲に活躍してゐる理由もこれだつたでせう。

そして、この條約を結ぶ當時、ドイツにもイタリアにも共産主義が入りこんで、國內を亂し、とても國力を衰えさせてゐたのです。

ドイツやイタリアが苦杯をなめさせられたのは戦争の結果といふよりは、共産主義のためでありました。

したがつて、ドイツ、イタリアがどんなに深く、共産主義の害毒を知り、そして憎んでゐるかもよくおわかりになつた事でせう。

憎くむべきは共産主義であり、戒心すべきは國民の一致協同力のにぶらない様にすることにあります。

ドイツ、イタリアを死線におしやつてしまつて、更にイギリス、フランスは何を考へたでせう。

兩國はたくさん領土をもつてゐた上に、また、ドイツの植民地を横領しましたが、それも考へて見れば、戦争の爲に使つた、たくさん費用と人命の犠牲から考へて見れば、決して利益のあるものではありませんでした。

そこで、イギリスやフランスは、もう白人同士で相争つて見ても、自分の領土を減らす様なことはあつても、決して得ることはない。とるのならばやはり、白人のものになつてゐない支那であると考へました。

それには各國がイギリスやフランスと戦争の出来ない様な仕組みを考へ、その上に東洋の守護神である日本をいたためつけなければならぬといふ事に考へつきました。

それが國際聯盟の結成であり、軍縮會議であります。

現在、日本が聯盟を脱退し、軍縮條約を破棄してゐますが、まことに當然なこと

であるといはなければなりません。

これらは、日本に百害あつて、一利もないからくりであり、東洋を永遠に不幸におとし入れる、にくむべき奸策であるからであります。

かくして、再び東洋は危機にさらされることになりました。

支那の排日政策

東洋の危機が再び訪れました。

今や、全東洋人が覺醒して、この憎むべき毒敵を防がねばなりません。

しかるに白人の奸策は、遂に巧妙なからくりをもつて、いよ／＼東洋を滅亡の淵におしやることに着々と成功いたしました。

そも／＼、東洋を弱らすために、白人たちは如何なる奸策を用ひた事でせうか、東洋を弱らす！その一番の近道は日本を弱らすことあります。

日本をいためつける。

日本を弱らす。

この目的の爲に、白人たちは實に巧妙なからくりをやつてのけました。

それは日本と支那を反目させることあります。

日本をいためつけるにも、自分達の力でやることは危険である。自分は高見の見物で支那にやらせて、お互が弱くなれば、これこそ、理想である。

かくして、白人共は、あらゆる智能をしぼつて支那人に排日運動をおこさせることにいたしました。

世界大戦の時日本はイギリスに味方をいたしました。

それはその頃日英同盟があつたからです。日本が聯合國側に味方をした。

この事はどんなに聯合國側に力強い事であつたかわからぬ程の力であつたのです。

物資の供給は受ける。軍需品は手に入る。その上に勇猛果敢な日本軍は東洋に於けるドイツ海軍の活動をぐつと押さえてしまひました。

インドが、ドイツの攻撃を逃れた所以は全く日本の實力のお蔭でした。

日本はドイツの東洋の根據地であつた、南洋諸島、青島を占領してしまひました。

現在、南洋諸島が日本の委任統治になつてゐます。

青島も、戦争によつて、敵方から占領したものであるから、これも當然日本の領土の筈なのですが、もと／＼中華民國の領土であつたものですから、かつて、ロシアが滿洲を占領してゐたのを日露戦争で奪ひかへし、支那に返してあげたのと、おなじ様に、中華民國へ、日本は、青島を返してやりました。

中華民國も、大變日本のやり方に喜んで、そのお禮として、日本が支那の地で便利の様に、いろ／＼と權益を取りきめてくれました。

これが二十一ヶ條々約と云ふのです。

ところが、日本と支那の間を悪くしやうとたくらんでゐた白人共は、早速く、支那にやつて来て、支那をけしかけました。

「君達は、うつかりしてゐると日本に滅ぼされてしまふぞ、

近頃になつて、急に日本がいろ／＼と支那に權益を持つやうになつたが、これはよろしくない。日本が強くなれば、當然支那をほろぼしてしまふにちがひないから、

お前達はあらゆる方法をもつて、日本を弱めないことには、とんでもない事になるから」

と、親切氣にそゝのかしました。

何といふ、圖々しいやり方ではありませんか、自分達が支那を侵略しにかゝつてゐるのを、自分達は親切者に思ひこませ、日本を憎ませやうといふのです。

何のために、日本は滿洲を支那に返してやつたのか、

そも／＼、日本に支那侵略の意志があるのならば、青島も返却する筈がないではな

いか、多大の戦費と尊い人命を犠牲にして、支那保全の道を考へてゐる日本の悪口をいふ、しかも、この神聖なる犠牲によつて、日支の間に深い関係が出来上つて来た。

この関係は日支親和のしるしである。

日本人の尊い血の築いた、兩民族間の平和の紐ではないか。

この紐を侵略の紐だといつた白人の面憎さよ

だが、あゝ、休すべし、

支那人は、まんまと、白人のこの奸言にのせられてしまつたのだ。

これからだん／＼と支那は日本を悪者に思ひこみ、日本人を排斥したり、日本の商賣の邪魔をする様になりました。

白人の日本壓迫

日本は支那人の淺はかさに困つてしまひました。

西洋人は自分達の思ふ様になつてゆくのを喜んでゐました。

日本は何としてもこの状勢を打開しなければなりません。

その前にもう一つ、私達は白人のとつた奸策を見てゆかなければなりません。

それはワシントン會議であります。

ワシントン會議こそは、まつたく、白人が日本を弱める爲に開いたからくりであるといつてよいのです。

世界平和といふ美名にかくれて、日、英、米、佛、伊、の五大國と蘭、白、葡、支の四國を合せた九ヶ國が會議しましたから九ヶ國會議といひます。

戰爭をなくす様にするため、軍縮をしやうと云ひ出しました。

世界平和はもとより、我々の好むところ、何の反對の理由もありません。

そして、この條約で、イギリスとアメリカが世界第一の兵力を保有し、他國はずつとそれより減らされてしまひました。

日本は、その當時もつてゐた兵備よりも減らされてしまつたのです。

即ち海軍力は

英米 五十二萬五千噸

日本 三十一萬五千噸

と、されてしまひました。

更にイギリスは、もう世界は平和になるのだからといつて、日英同盟を排棄してしまひました。

この會議の様子で、中華民國は、日本が英米とくらべて、ぐつと兵備が減らされ、また不名譽な約束をおしつけられるのを見ると、いよ／＼日本を侮る氣持が強くなつて來ました。

なほ、白人達は、それだけで安心が出來なくて、それでも日本が支那に手を出して、將來、自分達の邪魔になつては困るといふ考から、支那問題を取りあげ、

一、今後一國だけで支那の地に利益を得ないこと、

一、支那の内政に干渉したり、領土をとらないこと、

などの條約を結び、日本の東洋における働をにぶらせることに工夫いたしました。

そしては、ひそかに支那にむかつて、白人は、日本の支那侵略を防ぐためにこの條約を結んでゐるのである、白人は支那の絶對の味方であると、宣傳いたしました。

これから、イギリス、ロシアなどが、しきりと親切顔に支那に近かつて排日をたきつけるに一生懸命になつたのであります。

ロシアは赤化思想を輸入する。

イギリスはどし／＼支那に金を借して權益をとつてゆく。

しかし、流石に世界平和を口に唱へた關係上公然とは支那侵略の手はのばしませんでした。

そこで日本は一時白人の支那侵略といふ心配がなくなつたわけです。

そこで、もつほら軍備を縮小した餘力で、國力を養ふ事に力を注いだので、隆々と國威があがり、商業などは世界第一といはれる程に盛になり、世界中に日本製品がみちあふれるの状態になりました。

人口は年々増加してゆく、文化は進んでゆく、すばらしい勢であります。

いろ／＼の條約や、軍備で日本を押さえる事が出来ると思つてゐた白人はびつくりいたしました。

そこで更に日本を苦しめる奸策をめぐらすことにいたしました。

それは日本人の移民禁止となり、日本商品の輸入制限といふ形をもつてあらはれてきました。

一方イギリスは、支那の裏面にまはつて、日本の悪口を宣傳し始め、支那から日本人を排斥してしまひ、日本の權益を沒收せしめてしまほうといたしました。

支那は日本は弱いと思つてゐるし、恩人の様に思つてゐるイギリスの云ふことです。

からすつかり宇頂天になつてしまひ、満洲における日本の權益を沒收してしまふと計りました。

それがつひに満洲事變となつたのである。

條約でしぼり

軍備でおさへ

貿易で苦しめ

移民でいため

満洲の權益をとつてしまふ

と、云ふ二重、三重の壓迫で日本は亡びてしまふに違ひないと白人は思つてゐました。

一方、日本は白人の奸策を忍びに忍び、がまんにがまんをつゞけてやつてまいりました。

赤化の手はのびる、イギリスの手はのびる、日本はあらゆる方法で壓迫される。
あゝ！
ふたゝび東洋は存亡のふちにさまよはなければならなくなつた。

十三、興亞の第一聲

滿洲事變

白人の奸策いよく進み、まさに東洋は危急存亡の一線まで追ひつめられてしまつた。
移民の禁止をくつた。
商品の輸出制限をくつた。
軍備は制限されてしまつた。
そして、

無智無謀な支那の行爲、白人のにくむべき奸策の進行、
日本は忍べるだけ、もう忍んで來た。

よくぞ忍んだ、

平和への念願のためだつた。

しかし、もうこれ以上は忍べない。

支那の排日運動は猛烈となつた。

商品不買を強化した。

それでも黙つてゐた。

そこに

排日は毎日とかはり、毎日抗日と進んで來た。

もはや猶豫はならぬ

これ以上黙忍、隱忍したら日本が自滅する、自衛の爲に、生命線の確保に、支那人

の反省のために、

起て、神州男子！

禍根を今にして絶たずば、東洋は遂に滅亡せん。

日本の血はふたゝび本然の叫びをあげて来た。

先祖にたぎつた血がふたゝびたぎりたつた。

東洋を平和に、世界を正義に

日本民族の使命に起て！

隠忍限りあり、見よ東亞の現状を！

かぎりなくもおきる日支諸事件

南京事件 昭和二年三月二十四日

居留民虐殺、傷害、掠奪、侮辱

漢口事件 昭和二年四月三日

日本人水兵に暴行

濟南事件 昭和三年五月三日

居留民虐殺、日支軍衝突

萬寶山事件 昭和六年五月二十四日

中村大尉事件 昭和六年六月二十七日

重要な事件、外交問題になつた事件でもこんなになつてゐる、その他に、日々起る不愉快な事件の連發だ、

昭和六年九月十八日の柳條溝の爆破事件は遂に日支軍の正式衝突となり、滿洲事變の幕はきつておとされた。

皇軍勇士は勇猛果敢にたゝかつて、暴虐限りなき支那軍に膺懲の鐵鎚を下した。

東洋平和の聖戦がひらけたのだ。

東洋夜明の曉鐘だ、

そして遂に王道樂土の滿洲國建設の輝やかなしい新東亞の歴史がひろげられた。

昭和七年三月一日

これこそ新東亞の輝やかなしい新歴史だ！

全滿洲人の中にも正義の血が流れてゐた、新東亞に王道樂土を建設したいといふ熱望が遂に滿洲國の建設となつた。

次いで三月十二日、新滿洲國は、日、英、米、佛、蘇、獨、澳、白、丁、伊等十七箇國に對し

内ハ法律制度ノ完備ニ力ヲツクシ、以テ人民ノ安寧ヲ保證シ、其ノ福利ヲ増進セシメ、外ハ國際原則ヲ遵守シテ國交ノ親睦ヲ期シ、世界ノ平和ニ貢獻セントスと、通告を發した。

我國では、滿洲三千万民衆の福利と、東洋平和の確立の爲に、この求めた握手に朝野をあげて賛成し、斷然滿洲國を承認する事に決し、昭和七年九月十五日議定書の調

印が行はれました。

日滿議定書

日本國ハ滿洲國ガ其ノ住民ノ意志ニ基キテ自由ニ成立シ、獨立ノ國家ヲ成スニ至リタル事實ヲ確認シタルニ因リ

滿洲國ハ中華民國ノ有スル國際約定ハ滿洲國ニ適用シ得ベキ限り之ヲ尊重スベキコトヲ宣言セルニ因リ

日本國政府及滿洲國政府ハ日滿兩國間ノ善隣ノ關係ヲ永遠ニ鞏固ニシテ互ニ其ノ領土ヲ尊重シ東洋平和ヲ確保センガタメ左ノ如ク協定セリ

一、滿洲國ハ將來兩國間ニ別段ノ約定ヲ締結セザル限り、滿洲國領域内ニ於テ日本國又ハ日本國民ガ從來ノ日支間ニ條約協定其ノ他ノ取極メ及公私ノ契約ニ依リ有スル一切ノ權利利益ヲ確認スベシ

二、日本國及滿洲國ハ締結國ノ一方ノ領土及ビ治安ニ對スル一切ノ脅威ハ同時ニ締

約國ノ他方ノ安寧及存立ニ對スル脅威タルノ事實ヲ確認シ兩國共同シテ國家ノ防衛ニ當ルベキコトヲ約ス之ガ爲所要ノ日本軍ハ滿洲國內ニ駐在スルモノトス
この偉大なる事實に世界は茫然自失いたしました。そしてよつて、たかつて、日本を批難する。日本を侵略者だといふ。聯盟の如きはこぞつて日本非難をいたしました。白人、もとより喜ぶ筈はないのです。しかし、日本人は白人を不幸に陥れやうといふのではない、新東亞建設、世界平和の聖業達成が念願である。
正義の軍である、聖戰である。如何なる聲にもおそれるの必要なし、聯盟を脱退し、斷乎と進んでまいりました。

列國はいたし方なく、今は更に支那によつて日本を弱めるより、いたしかたなし、とし熱心に支那をそゝのかしました。

蔣介石は、かうした状態の中にあつたから政策を誤つてしまひました。
東洋の聖なる歴史の曉聲は遂に蔣介石に聞き得ませんでした。

ロシアやイギリスは、しきりと國民政府をおだて、蔣介石が民心を統一するには、支那民衆を抗日精神に燃えさせることであると云つたもので、彼は、全支に向つて、熱心に

日本を敵にして起て！

と、唱へ、宣傳したのであります。

道をふみ外した蔣介石はいよく脱線し、ロシアや、イギリスの使ひ古びた武器や、飛行機を買はされ、數のみで強くなつたと思ひこみ、日本と戦争するためには、恐ろしいロシアに國を賣つてしまつてもいゝとすら考へる様になりました。

東洋の危機、更に深し

支那はまさに赤化せんとしてゐる

支那はまさに西洋諸國の笛に踊つて分割されんとしてゐる。

將に立て！起て！神州日本

東洋の一大危局にたつて、斷乎、再び日本は聖戰の火蓋をきりました。
支那事變です。

白人の如何なる邪魔も干渉をもおしのけて、東洋永遠の平和の爲に、あやまつた蔣一派の考へ方を直す爲に、皇軍は起ち上つた。

東洋平和の盟主としての使命遂行を達せんために、天皇陛下の皇軍は破邪の劍をとつて起ち上つた。

支那の地にとどろく砲聲こそは、アジャの夜明のしらせである

東洋に樂土が建設される祝砲である

東洋全土に日の丸の旗がひらめく時、

東洋は天皇陛下の御稜威によつて平和郷となるであらう。

興亞日本の使命

私達は今偉大な歴史を創造しつゝあるのです。

私達のどの先祖もが念願して來た大業を實現しつゝあるのです。
三千年間！

私達の祖先は、ひたすらの日本民族のもつ使命達成の爲に、力を養つて來ました。

私達の血の中には、あらゆる祖先の血が集結してゐます。この祖神と祖先の血をうけついで私達は大業を遂行しつゝあるのです。

私達がしてゐるではありません。

私達の血に傳はる祖神の血と、先祖の血がしてゐるのであります。

私達の血は祖神のものであり、祖先のものであります。私達の血の根源は皇室であります、皇室を中心とした私達の尊嚴なる血は、世界正義の建設の血であります。

その第一段として、新東亞の歴史創造を開始いたしました。

支那事變も已に二ヶ年でありませぬ。

戦果は着々とあげられ、連戦連勝、新東亞建設も近くの日にあらんとしてゐます。

しかし、まだ達成したものではありません。
 まだ／＼幾多の苦難の行路があります。

興亞こそは我々の血がもつた使命

たとへ如何なる困苦と、年月が私達を苦しめ様と、私達は誓つて、この聖業を達成しなくてはなりません。

すでに、維新政府と臨時政府が設立されて、支那も樂土に變りつゝあります。

至誠をもつてして未だ通ぜざるものはこれあらざるなり

支那人の中にも、だん／＼と覺醒して、日本の聖業を理解する者が現はれてきつゝあります。孫文の重臣であり、蔣介石の先輩であつた汪兆銘は敢然超つて蔣介石と袖を分つて大業に努力してきました。

しかし私達は戦争に勝つたゞけでは、この聖業が達成されると思つてはなりません。支那四億の民衆一人一人に皆、日本の聖業をわからせなくてはなりません。

東洋に光榮の歴史がくりひろげられてゐます。

新歴史が創造されてゐます。

しかも、私達の手によつて、

私達は興亞日本の國民としての光榮を思ひ、責任をかしこみ、誓つて、大業遂行達成を期さなければなりません。

皇紀二千六百年！ 東亞の新たな歴史がこの日から開かれることであらうことを私は信じてうたがひません。

そしてこの光榮の歴史は貴方々の若き力によつてますます輝やかしてゆかなければなりません。

昭和十四年十二月十八日 印刷
昭和十四年十二月二十三日 發行

少國民日本二千六百年史
奧附



定價金九十五錢
外埠定價一圓十錢

著者 佐原二郎

發行者 東京市四谷區新宿一丁目八十八番地
北村幸雄

印刷者 東京市牛込區早稻田鶴卷町二六〇番地
稻葉惠一

發行所

東京市四谷區新宿一丁目八十八番地
振替東京二七三〇番

合資三友社
電話四谷(35)三三二一

はにるへ與を識知の那支に童兒

沼田利三郎著

文庫童支那の歴史物語

尋常五六年の生徒が讀んでとても面白い支那歴史の物語りである。今日の小學生はあまりにも支那を知らないといふ事から、國雄さんと云ふ小供が御父さんからの面白い御話を毎夜毎夜聞いたのをまとめた本である。家庭の讀みものとして極めて適當である。課外讀本としておすすすめする。

栗原静一著

文庫童支那の地理物語

今度の事變でどこを占領したと云つても、その場所を知らなくては、御話をきいても面白くない。この本は先生と生徒とが、支那の各地を飛行機に乗つたり揚子江を舟で上つたり下つたりして、各地見學した物語である。小學四五年生でも樂々とよめる面白い支那の地理書として、家庭的にだれが讀んでもためになる書物である。課外讀本としておすすすめする。

渡邊哲夫著

文庫童支那童話讀本

支那の童話を平易に書いたものである。其の内容は裸の王様・蟻の恩返し・驢駝・四つの願ひごと・命の木外十八種。類書なき支那童話をして興味深き讀物

鷺尾知治著

ロシヤ物語

兒童のものがたりでは定評ある著者がこの時局に對し、兒童によませたい熱心によつて出來た面白いロシヤの御話であり、ロシヤの昔から今までの歴史や産業、工業、農業のありさまや、今のロシヤにどんな生活が行はれるか、赤軍の話など面白くやさしくかき表されてある家庭のよみもの、學校の課外よみものとして最もよい本である。

榎葉勇著

ドイツ物語

日本の友達になつたドイツの昔からの歴史物語や盛んな工業や農業その他いろいろな産業、青年團や兵隊、飛行機や軍艦の御話はなしから、更にドイツの童話、ラインの物語ヒツトラの御話などドイツを子供によくわかる様にかいてある家庭、學校のよみものとして極めて適當なものだ。

荏原二郎著

イタリヤ物語

イタリヤはローマから始まつて今のムツツリニまで永い歴史がある。その面白く力のある筆でかきこなしてあるやさしい少年少女向けの御話である。ローマの文明やハンニバルからマルコポーロやコロンブスなどの面白く御話のよき本である。今度の世界大戦争、ムツツリニの生立ちなど一度よみ出した是非一冊を御すすすめする。

送料 四六判 美 二六判 美 四六判 美 二六判 美

送料 四六判 美 二六判 美 四六判 美 二六判 美

送料 四六判 美 二六判 美 四六判 美 二六判 美

送料 四六判 美 二六判 美 四六判 美 二六判 美

送料 四六判 美 二六判 美 四六判 美 二六判 美

送料 四六判 美 二六判 美 四六判 美 二六判 美

東京市四谷區 三友社發行 振替口座 東京 〇三〇七二

東京市四谷區 三友社發行 振替口座 東京 〇三〇七二

931

63

陣中漫画・スケット カメ 癩風呂

傷痍軍人三上卯之介上等兵の彈雨下に於ける貴重な血を以て綴れる聖戰記念高級漫畫とスケッチ、今すぐ書店でお求め下さい。

目次内容

四六判二三〇頁
定價一圓二十錢
送料普通十五錢
代引十五錢

口 繪 (オフセット、アートの色刷)

姑娘、支那兵、支那の子供、雨中の工兵渡河、決死隊等他數點。

整壕ユーモア漫畫と漫文

陣中川柳

連續マンガヒゲの一等兵

第一線の卷、敵前渡河の卷、追撃戦の卷、警備の卷

戦線ハガキ通信

全ハガキ版のスケッチと通信文。

野戦病院スケッチ

三上上等兵が戦傷後の生活日記。

激戦地スケッチ

有名な激戦地の當時の印象畫。

發行所 資合會社 友三社

東京市四谷區新宿一ノ八八番
振替口座東京二七三〇番

終

